

# 入賞作品紹介

⑤

## 中学生の部親子賞 優秀賞

### ふくしま駅伝と新聞

三春町 橋本 みなみさん  
三春中2年

九月一日に行われた田村支部中学校駅伝大会が終わり、私はふくしま駅伝の三春町チームの練習に参加することになりました。練習メニューは、クロカン走、インターバル走、ジョギング、記録会など本格的でした。練習についていけるように一生懸命走りました。おかげで各地のロードレース大会で入賞できるようになりました。その結果が新聞に出て、うれしさを二回味わうことができました。そしてまた頑張ろうという気持ちになりました。

ふくしま駅伝が近づいてきて、十一月十日に三春町のチーム紹介が新聞に載りました。メンバーの中に私の名前がありました。祖父は「応援に行くと喜んでくれました。新聞を見た人の中には「頑張ってるね」と言ってくれる人や、私のために差し入れを持ってきてくれる人もいました。

大会前日の十一月十八日。新聞には全チームの選手紹介が掲載されました。私は十五区です。試走は三回行っていたのですが、コースも走り方もイメージできていました。新聞をチェックして最後のふくしま駅伝の練習に出場することです。

次の日、新聞には全チーム、全選手の成績が載りました。当然だけど自分の名前はありません。私はふくしま駅伝と新聞から、走ること以外の大切なことも学ぶことができました。四月から中学三年生。今年の目標は、中学最後のふくしま駅伝に出場することです。

実家の母は、一月で七十九歳になった。白内障と緑内障と飛蚊(ひぶん)症を患った目で見る新聞は唯一おくやみ欄。私がマラソン大会で入賞して新聞に名前が載っても、「ここに出てるよ」と指で指して教えない。そんな母はここ数年、膝の痛みをだましながら農作業を続けてきた。しかし昨年の春先、とうとう歩くのもままならない程になりました。数日寝込んでしまったのだ。

私は、北側にある薄暗い母の寝床の戸を開けたい。そして年中耳鳴りがするという母に向かって「大丈夫？」と声をかけた。「この足さえ痛くねえど...」。膝を叩きながら、弱々しい、悲しい声で母は心えた。私が小学生の頃。朝目を覚ますと母の姿はなく、炊飯器の飯だけが炊き上がっていた。運動会の時などはお昼になっても母が現れず、友達のおかあさんにおにぎりをもらい、砂をかむような思いで泣きながら食べたこともあった。今となっては、農繁期の忙しい母の苦勞を理解し、昔の思い出として懐かしむこともできるが、そんな母のことを心のどこかで恨んでいる自分もいた。

### 母と新聞

母 橋本 由香里さん  
はしもと ゆかり

戸を開けて光が差したタンスの上に、何かか積み重なっているのが見えた。私は母がいない間にそれは何かと確かめた。するとそれは、私がマラソン大会で入賞し、名前が載った新聞の数々だった。以前の私なら、切り抜くでもなく、ただ丸ごと一日分取っておくだけの新聞の山を見て文句の一つも言っていただろう。だけどその時、積み重なった新聞の一部一部に、母の優しさが宿っているように思えて胸がぎゅっと締めつけられるような思いがした。積み上げられた新聞の山に母の恩を感じながら、母のことを心のどこかで恨んでいた自分を恥ずかしく思った。

読む知る学ぶ E! 新聞